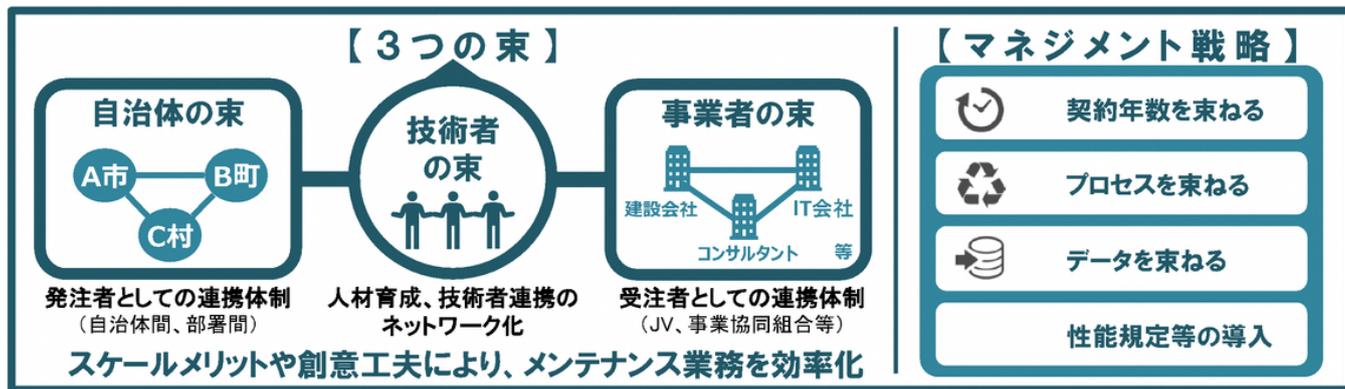


インフラ維持管理の新たな挑戦

人手不足時代に束で立ち向かう「地域インフラ群再生戦略マネジメント」の試行

地域インフラ群再生戦略マネジメント（群マネ）とは？

今後、技術系職員に限られる中でも、的確なインフラメンテナンスを確保するため、道路や河川、公園などのインフラを束ねて「群」として捉えることで、効率的・効果的にマネジメントしていく取組です。



「群マネの手引きVer.1」国土交通省(2025年10月)参照

なぜ群マネを試行するのか

私たちが、家から1歩外に出て、目的地までの移動で目に映る景色には、道路や河川などのインフラが広がっています。先人の土木技術者達が築いたインフラは、私たちにとって身近な存在であり、子育て、教育、産業、観光、そのどれもがインフラを基盤として成り立っています。

私たちの暮らしを支えているインフラですが、私たちと同じように年々、歳を重ねています。そして、高度経済成長期以降に築かれた多くのインフラが、一度に老朽化を迎える時代に突入しています。一方で、少子化や生産年齢人口の減少などの社会構造の変化により、インフラの維持管理に携わる土木技術職の担い手を確保することが難しくなっています。

こうした状況の中、三原市では、これまでの1つ1つのインフラを維持管理していくやり方では、近い将来、管理能力の限界を迎えてしまうのではと考えるようになりました。

これまでの社会経済の発展や、生活の豊かさを目的とした「造る時代」とは異なり、これからは先人の土木技術者が築いた、たくさんの構造物を同時に管理し、大切に使い続けなければなりません。そのため、三原市の地域に合った効率的なインフラ維持管理を模索するため、「群マネ」を試行するものです。

期待される効果

すでに群マネを取り入れている先行事例では、発注者、事業者、住民それぞれから効果が実感されています。

発注者		
	職員の直営対応時間が減った (発注作業の分担や、性能規定による業者指示の効率化など)	職員の技術力が向上した (技術力のある自治体と一緒に仕事することで、学びが進む)
	インフラ管理者としての本来業務に注力できるようになった (計画策定への新規着手、工事発注の増加など)	不調・不落件数が減少した
事業者		
	作業そのものが効率化した (パトロールを一本化、近隣現場を同時に作業、舗装補修と路面清掃をセット化など)	書類作成の手間が減った (JVの代表企業に一本化され、構成企業は作業に集中)
	創意工夫が発揮しやすくなった (都度指示ではなく、事業者側からも新技術や作業方針を提案)	地元業者の技術力が向上した (JV等により事業者同士がこれまでよりも深く連携)
	人員や資機材の確保がしやすくなった (JVメンバー間で時期の調整や融通)	新たな雇用や設備投資に結びついた (複数年契約などで見通しがついた)
住民		
	インフラ維持管理への満足度が向上した (以前よりも、相談後の対応が迅速化したり、先回りでの対応がなされるようになった)	

「群マネの手引きVer.1」国土交通省(2025年10月)参照

三原市「群マネ」試行の概要

業務区域	三原地区
業務範囲	① マネジメント業務
	② 窓口業務
	③ 巡回業務
	④ 施設点検業務 (樹木、遊具、橋梁)
	⑤ 維持補修業務 (道路、河川、公園、広場、県施設)
	⑥ 修繕工事 (舗装)
業務期間	令和8年10月～令和11年3月